

13 第二部商経学科教養科目
(教養一般)

授業科目	人間と文化	担当者	坂上ちえ子, 中熊美和, 小亀拓也, 近間由幸, 宗田健一, 田口康明, 小林朋子, 木戸裕子
	[履修年次] 1~3年いずれでも履修可	[学期] 前期 (集中講義)	
	[単位] 2 単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義 方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを, 人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大3学科の教員7名が, それぞれの分野から, さまざまな地域・時代における「文化」を, 異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に, 多角的な知見を学ぶことで, 受講生にとって, 時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。 (9/13,9/14,9/15,9/19,9/20,9/21,9/22の集中講義。県内大学等のコーディネート科目であり, 他大学等の学生も受講する)</p> <p>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより, さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (必要に応じて後日指示します。) (2) 授業中, 必要に応じて指示します。		
授業スケジュール	第1回 薩摩切子 (1) : はじまりと歴史 (坂上) 第2回 薩摩切子 (2) : 色彩とデザイン (坂上) 第3回 食生活と文化 (1) : 日本の食文化 (中熊) 第4回 食生活と文化 (2) : 鹿児島県の食文化 (中熊) 第5回 言語と文化 (1) : 日本語の特徴を概観する (小亀) 第6回 言語と文化 (2) : 平安時代の日本語を読み解く (小亀) 第7回 経営組織と文化 : 組織文化をマネジメントする (近間) 第8回 労務管理と文化 : 日本の企業文化と働き方の関係性 (近間) 第9回 会計と文化 (1) : 簿記・会計の歴史 (宗田) 第10回 会計と文化 (2) : 会計数値から企業の特徴を読み解く (宗田) 第11回 教育と文化 (1) : これまでの教育 (田口) 第12回 教育と文化 (2) : これからの教育 (田口) 第13回 アメリカ文学と文化 (1) : 詩から19世紀アメリカ文化を知る (小林) 第14回 アメリカ文学と文化 (2) : 小説から20世紀アメリカ文化を知る (小林) 第15回 まとめ (順番, 内容を変更することがあります)		
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	レポートの提出 (85%) と毎回の授業の感想・意見等 (15%) で評価します。		

授業科目	日本の歴史	担当者	永山 修一
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	講義
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原始~中世前期の「日本の歴史」</p> <p>【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ, 十分に意識しながら, 南九州から南島に生活した人々の姿, なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。</p> <p>【到達目標】身近な歴史に関心を持つことができ, 歴史的思考力の一端を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 授業時に配布 (プリント) (2) 『鹿児島県の歴史』 (山川出版社, 1999年) 原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一		
授業スケジュール	第1回 歴史の見方 第2回 資料と史料 (文献) 第3回 資料と史料 (遺物) 第4回 資料と史料 (遺構) 第5回 旧石器時代・縄文時代 第6回 弥生時代 第7回 古墳時代 第8回 神話と伝承 第9回 隼人と律令制度 第10回 薩摩国正税帳を読む 第11回 平安時代の薩摩・大隅 第12回 奄美諸島の歴史 第13回 キカイガシマをめぐる 第14回 イオウガシマをめぐる 第15回 まとめ		
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業時毎の小レポート (60%) レポート (40%)		

授業科目	日本文学・古典（隔年開講）	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 1,2,3年次いずれでも可 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	オフィスアワーに準じる
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安人の異文化との遭遇—遣唐使と平安文学—</p> <p>【概要】現代の社会においても異文化理解は大きな課題です。今から1000年以上前の平安時代の人々にとっての異文化といえば、隣国中国（唐）でした。</p> <p>この講義では、奈良時代から平安時代にかけて、外交使節団として唐に渡った遣唐使の異文化交流の様相と、それが平安時代の文学にどのように影響を与えたかを考えていきます。</p> <p>【到達目標】古典文学に親しむ。遣唐使について理解を深め、古代における異文化交流、異文化理解がどのようなものであったか考える。平安時代文学に反映した異文化理解について考え、自分のことばで意見をまとめることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 王勇『唐から見た遣唐使 混血児たちの大唐帝国』（講談社選書メチエ 一九九八） 東野治之『遣唐使船 東アジアの中で』（朝日選書 一九九九） 『阿倍仲麻呂』（吉川弘文館 人物叢書 二〇一九）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：初めに。異文化理解とは。</p> <p>第2回 遣唐使とは：続日本紀の記録</p> <p>第3回 遣唐使の実例：阿倍仲麻呂と吉備真備</p> <p>第4回 遣唐使の実例：航海の苦勞と遭難</p> <p>第5回 平安朝物語の中の遣唐使の記憶1：竹取物語</p> <p>第6回 平安朝物語の中の遣唐使の記憶2：うつほ物語</p> <p>第7回 平安朝物語の中の遣唐使の記憶3：宇治拾遺物語</p> <p>第8回 実在の遣唐使の虚と実1：吉備大臣入唐のこと</p> <p>第9回 実在の遣唐使の虚と実2：鬼となった阿倍仲麻呂</p> <p>第10回 実在の遣唐使の虚と実3：阿倍仲麻呂と唐代詩人</p> <p>第11回 実在の遣唐使の虚と実4：吉備真備の活躍</p> <p>第12回 実在の遣唐使の虚と実5：井真成の墓誌</p> <p>第13回 渤海国との交流：源氏物語</p> <p>第14回 渤海国との交流：菅原道真、大江朝綱</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業で取り扱った作品を読む。遣唐使の事跡について調べる		
成績評価の方法	毎回の授業のコメントカード (50%) レポート (50%)		

授業科目	こころの科学	担当者	未定
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	比較文化		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	メール対応 (chenyue0205@yahoo.co.jp)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！）</p> <p>【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。会話パターンの日中相違、接し方の日中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、相違の背後にある文化価値観を浮き彫りにし、最終レポートにまとめる。</p> <p>【到達目標】1 中国社会を知る。2 中国人を知る。3 日本人と中国人との相違を知る。4 「日本人」に関して再度認識する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 陳 躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年）</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 空気を読まない中国人と空気を讀む日本人</p> <p>第 2 回 初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人</p> <p>第 3 回 店員が紳様である中国と客が紳様である日本</p> <p>第 4 回 イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人</p> <p>第 5 回 家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人</p> <p>第 6 回 向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人</p> <p>第 7 回 なげなげしい中国人とよそよそしい日本人</p> <p>第 8 回 中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」</p> <p>第 9 回 「かまわない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人</p> <p>第 10 回 無責任なことをかかると言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人</p> <p>第 11 回 その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人</p> <p>第 12 回 喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人</p> <p>第 13 回 核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人</p> <p>第 14 回 傍若無人な中国人と人の目ばかり気にする日本人</p> <p>第 15 回 相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。</p>			
成績評価の方法	<p>授業への参加態度 (60%)、レポート (40%)。</p>			

授業科目	アジア文化論		担当者	カムチャイ ライサミ
	[履修年次]	1年, 2年, 3年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アジア文化のダイナミズム</p> <p>アジア文化は多様性に富んでいる。その要因とは何か。アジア文化の本源的要素と現代的状況を明らかにする。</p> <p>【概要】アジア文化は世界文化の一大拠点を成している。アジアの自然・風土・民族・宗教がどのようにアジア文化を育み、どのように経済社会や生活に影響を与えるか、実例を交えながら比較検討する。</p> <p>【到達目標】アジアの自然・民族・宗教を展望し、アジア文化の深層が理解できること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じて、その都度指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 アジア文化の多様性</p> <p>第 2 回 文化と風土・民族</p> <p>第 3 回 文化と生活</p> <p>第 4 回 文化と経済</p> <p>第 5 回 文化と宗教Ⅰ：儒教と道教</p> <p>第 6 回 文化と宗教Ⅱ：仏教</p> <p>第 7 回 文化と宗教Ⅲ：インドの宗教</p> <p>第 8 回 文化と宗教Ⅳ：イスラム教</p> <p>第 9 回 アジア比較文化Ⅰ：日本と韓国</p> <p>第 10 回 アジア比較文化Ⅱ：中国と台湾</p> <p>第 11 回 アジア比較文化Ⅲ：香港とシンガポール</p> <p>第 12 回 アジア比較文化Ⅳ：マレーシアとインドネシア</p> <p>第 13 回 アジア比較文化Ⅴ：タイとフィリピン</p> <p>第 14 回 アジア比較文化Ⅵ：ベトナムとミャンマー</p> <p>第 15 回 アジア比較文化Ⅶ：インドとパキスタン</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。</p>			
成績評価の方法	<p>期末筆記試験 (100%)</p>			

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生																																													
	[履修年次]	1,2,3年履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期]	後期	[単位]	2単位																																													
			[必修/選択]	選択																																													
				[授業形態]																																													
				講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法(令和4年度版)』,有斐閣</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>憲法概論</td> <td>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>基本権総論</td> <td>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>幸福追求権</td> <td>・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>精神的自由権(1)</td> <td>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>精神的自由権(2)</td> <td>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>精神的自由権(3)</td> <td>・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>経済的自由権</td> <td>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>受益権</td> <td>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>社会権(1)</td> <td>・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>社会権(2)</td> <td>・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>国会(1)</td> <td>・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>国会(2)</td> <td>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>内閣</td> <td>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>裁判所</td> <td>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>財政</td> <td>・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</td> </tr> </table>				第1回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第2回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第3回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について	第4回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第5回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について	第6回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について	第7回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第8回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第9回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について	第10回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について	第11回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について	第12回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第13回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第14回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第15回	財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について
第1回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																															
第2回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																															
第3回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について																																															
第4回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																															
第5回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について																																															
第6回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について																																															
第7回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																															
第8回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																															
第9回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について																																															
第10回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について																																															
第11回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について																																															
第12回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																															
第13回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																															
第14回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																															
第15回	財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について																																															
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。																																																

授業科目	キャリアデザイン		担当者	担当教員
	[履修年次]	1年	[学期]	通年
	[単位]	1	[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージするための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ◆5月17日(水)(特設時間を利用) 第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは ◆6月14日(水)(特設時間を利用) 第2回 自己分析 志望動機 ◆7月12日(水)(特設時間を利用) 第3回 企業研究の必要性とそのやり方 ◆9月20日(木)3限 第4回 企業が求める人材 ◆9月20日(木)4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆10月18日(水)(特設時間を利用) 第6回 働いて「困った」への対応方法 ◆11月8日(水)(特設時間を利用) 第7回 これから働くあなたへのメッセージ ◆12月20日(水)(特設時間を利用) 第8回 プロフェッショナルになろう(パネルディスカッション) <p>※ 5年度の講師については適宜掲示する。</p>			
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出(100%)			

授業科目	ライフプランニング		担当者	瀬尾 由美子
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義終了後
	[学期]	前期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 将来の生活設計に必要な「ライフプランニングの考え方」を身につける</p> <p>【概要】「ライフプランニング」とはこれから先の人生をどのように過すのかを思い描き、実現するための方法を考え、計画を立てることである。「ライフプランニング」の考え方を学ぶことで、経済的に自立し、安心して将来の生活を過ごすことができるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランニングに必要な金融や経済に関する基礎知識を身につける。 ・金融商品や各種サービスの選択をする際に適切な判断ができるようになる。 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「大学生のための人生とお金の知恵」 金融広報中央委員会（無償提供）、プリント</p> <p>(2) 「これであなたもひとり立ち」 金融広報中央委員会（無償提供）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ライフプランニング（1）：ライフプランニングの必要性と考え方</p> <p>第2回 ライフプランニング（2）：これからの人生のライフデザインを思い描く</p> <p>第3回 ライフプランニング（3）：ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性</p> <p>第4回 社会保険制度（1）：社会保険制度の概要と基礎知識</p> <p>第5回 社会保険制度（2）：公的年金制度の概要と基礎知識</p> <p>第6回 社会保険制度（3）：セーフティネットを理解する</p> <p>第7回 所得税：所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方</p> <p>第8回 貯蓄と投資（1）：消費と投資の考え方の違い</p> <p>第9回 貯蓄と投資（2）：貯蓄と運用の考え方の違い</p> <p>第10回 貯蓄と投資（3）：運用する際の基礎知識</p> <p>第11回 貯蓄と投資（4）：将来に備えるために役立つ制度</p> <p>第12回 貯蓄と投資（5）：金利と法律の基礎知識</p> <p>第13回 保険（1）：生命保険の基礎知識と考え方</p> <p>第14回 保険（2）：損害保険の基礎知識と考え方</p> <p>第15回 まとめ：第1回から第14回までのまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	講義中ごとの感想 (50%) 期末試験 (50%)			
実務経験について	2010年からライフプランセミナー講師、2013年からFP3級資格取得講座講師、2016年からFP2級資格取得講座講師			

授業科目	環境問題		担当者	井村隆介, 柴村奈緒子, 浅海真弓, 岡村雄輝
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を異なる視点から考える</p> <p>【概要】自然史(井村), 森林科学(柴村), 生活科学(浅海), 経済社会(岡村)の視点から環境問題を考える</p> <p>【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 國部克彦(編集), 神戸CSR研究会(編集)『CSRの基礎』, 中央経済社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認, 講義計画の説明等</p> <p>第2回 鹿児島県自然史(1) 鹿児島と気候変動</p> <p>第3回 鹿児島県自然史(2) 鹿児島県の地震と火山</p> <p>第4回 鹿児島県自然史(3) 鹿児島県の植生史</p> <p>第5回 鹿児島県自然史(4) 鹿児島県の自然と人</p> <p>第6回 森林科学(1)：動物と植物の相互作用</p> <p>第7回 森林科学(2)：獣害</p> <p>第8回 森林科学(3)：外来種</p> <p>第9回 生活科学(1)：衣生活と環境問題(衣服廃棄・リサイクルの現状と課題)</p> <p>第10回 生活科学(2)：食生活と環境問題(食品ロスの現状と課題)</p> <p>第11回 生活科学(3)：環境に配慮した生活(私たちの生活の中でできる取り組み)</p> <p>第12回 経済社会(1)：企業と公害(1)</p> <p>第13回 経済社会(2)：企業と公害(2)</p> <p>第14回 経済社会(3)：企業と地球環境(1)</p> <p>第15回 経済社会(4)：企業と地球環境(2)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	各講師の課題(20~30点満点)×4=100点とする			
実務経験について	なし			

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内7大学等の担当教員	
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2	〔学期〕 通年 〔必修/選択〕 選択(注)	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定			
授業スケジュール	<p>第1回 令和3年度実施概要(令和4年度については未定) 遠隔授業で実施</p> <p>日程：8月18日(水)～20日(金)</p> <p>場所：鹿児島大学</p> <p>定員：県内4大学等の学生 44人</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。 レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。 			

(注)「日本文学概論」(日本語日本文学専攻)、「スタディスキルズ」(英語英文学専攻)、「生活科学概論」(生活科学科)、「基礎演習」(商経学科)の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内7大学等の担当教員	
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2	〔学期〕 通年 〔必修/選択〕 選択(注)	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。</p> <p>この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>【学習目標】①指定地域内の調査地区の現地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。</p> <p>②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③現地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定			
授業スケジュール	第1回 令和4年度実施概要(令和5年度については未定) 中止			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。 レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。 			

(注)「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。